まちづくりニュース

ホームページ
https://tokiwadai.net/

２５３号
２０２２年１１月２７日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局　島田晴子　　tel・fax　3960 - 3869

― 都心低空飛行問題について ―

○ 慣れてしまっていませんか空の騒音

３日経てば忘れてくれる、などと揶揄される日本人の国民性です。羽田問題でも連日上空を飛ばれると、危険性に対する感受性も鈍くなっていきます。国策とされればどんな酷い事でも諦めざるをえず、大人しく諦めさせられてきた私達でした。しかし足尾銅山や水俣の決して諦めなかった人達を思い起こして下さい。理不尽な事は後世の爲にも容認してはならないのです。

○ 成田空港の１キロの落下物

10月21日朝、成田空港の滑走路脇で１キロ近くの重さの航空機の金属製の部品が落ちているのが発見されましたが、どの航空機のものか分からないままです。マスコミも続報を出していないようです。こういう問題を放っておいてはなりません。

○ 東京新聞一面にまとめ

品川区長選でも焦点に

11月５日(土)東京新聞朝刊一面「羽田新ルート　反発さらに」の見だしが目を引きました。

新宿・渋谷・品川といった新ルート下の区では町会・自治会長の過半数の反対署名を集めていること、国交省の対応が鈍いことなどを伝えています。

12月４日に行われる品川区長選挙でも、羽田問題に関わる市民の人々が、明確に新飛行ルートを否定する候補者を支持・支援しています。

市民運動が活発化していくことを祈ります。先進国のように市民がすぐ街に出て意思表示をする習慣が日本には根付いていないので。

○「定点写真」展のお知らせ

１２月１日（木）～６日（火）
10時～16時　(5日だけ～12時)
於　「ギャラリー服部」

1974年に常盤台を訪れた金井一朗さんが街角の風景を撮った３～４０枚の白黒写真を常盤台の景観を守る会に下さったので、それと同じアングルで定点写真を撮ることにしました。

2010年撮影のものと、2022年撮影したものと３枚を比べて見てください。街の変わらない、また変貌する姿が興味深くたどれると思います。

○ 常盤台は出ていた？　ＮＨＫ夜ドラ

10月10日から始まったＮＨＫ総合ＴＶの夜ドラマ「つまらない住宅地のすべての家」に常盤台にロケ隊が来たということで、第１話から終りまで録画して見ましたが、どこにも常盤台らしい家や風景は見当たりませんでした。一カ所、グリーンベルトと思われる所と樹木が背景になった場面がありましたが、不自然にぼやけていて何処かも解りませんでした。どなたか、この話のここに、と発見なさっていたらお教え下さい。

○ コロナ禍は身近な物に

今年の１・２月ごろにはコロナに罹るとバイ菌扱いされ、油断をしたからだと責められるように感じた人もいたようでしたが、今やコロナは５人に一人の割合になってしまい、どんなに気を付けても感染してしまうものであることが解って来ました。

第８波の予兆も見られる今、with コロナの方針で人間は生きて行かなければならなくなったのでしょうか。その為の知恵を出し合って医学も我々の生き方も変化するべきかも知れません。

犬の散歩とあと始末

ここ最近、子供たちの通学路やプロムナードに中型犬と思われる大きなうんちの残骸を多く見かけるようになりました。常盤台公園から住宅方面に曲がる道路に五、六か所の大きな残骸が点々と同じ位の間隔であります。

犬が一回でする量ではなく。散歩コースなのか？数回に渡っているように思えます。また、プロムナードでも今朝大きなうんちが残されていたのを見て常盤台に住み、街を誇りに思う者として悲しくもなりました。

プロムナードでは集団や個人で犬の散歩をしている人達を多く見かけます。特に暑い時期には犬のおしっこの匂いが漂います。

また、小学校の裏手では夜にコソコソ猫に餌を与える中年の女性がいます。猫のうんちが砂場などに沢山あるので先生達や事務の人達が毎日掃除をされていると聞きますし、子供たちも大変不快でしょう。散歩中に何回か見かけてやめるよう声をかけたことがありますが、餌の容器の残骸をみると定期的のようです。

常盤台の住民であれば、うんちの掃除もしっかりするでしょうし、住民以外の方がここに来ているのかな？と推測できます。このような犬の散歩の方達に声をかけていくことも自分達の住環境や景観を守る点からも必要なのではないかなと思いました。一人一人が意識していかないと、きれいな住環境は守れないと思います。これからは私も犬の散歩をしている方を見かけたら、うんちの処理についてお願いするようにしなければと思いました。

（K・M）

区の財政は「未曾有の金余り」！

板橋区は二一年度予算で「未曾有の財政危機」といって、社会福祉協議会や障害者福祉の補助金を削減しましたが、その二一年度末には大きな財政余剰が生じていて、区の貯金である「基金」を一一七億円も積み増すことになり、今年三月末には過去最高の九三八億円も積み上がっています。二千五百億円足らずの一般会計の規模に比して十分な額と思われます。その上、二一年度の決算では、さらに一二〇億円の繰越金が生じ、今年度の補正予算でも四二億円をさらに基金に積み増ししています。

板橋区は、この基金によって教育施設や公共施設の更新等に必要な整備予算は将来一〇数年分以上確保されていると説明しています。公共施設を削減したり建設を遅らせる必要など全くありません。

区の財政がコロナ禍にもかかわらず、大幅に増収になったのは、区民税そのものは確かにやや減少したのですが、固定資産税、市町村税法人分、特別土地保有税等を原資とする都区財政調整制度によって、収入の少ない区に交付金が出る仕組みがあるため、コロナ禍でも高収益であった大企業等の支払う税が回ってくるためです。

コロナ対策やワクチン接種など支出も確かに大幅に増えたのですが、板橋区は独自施策をほとんどとっていないため、国や都の交付金でまかなえています。

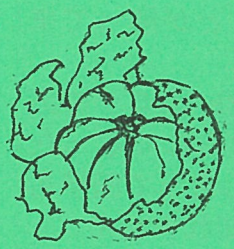
（M・Y）

常盤台公園のはなづくり

チューリップの球根を無事植え終りました。冬の間寂しくないように上にはビオラやパンジーが咲いています。その下に四百個以上のチューリップが春を夢見つつ眠っていることを想像してみて下さい。

今回はWさんが参加してくれて五人がかりで植えましたが、人数は増えていても老化が進んでいるせいか、疲れや足腰の痛みが増えています。

来年はこの花壇が存続しているか、心もとない状況ですが、自分たちのできる限りのことをしていくのみです。

秋は季節の移り変わりを楽しめる時です。新宿御苑では菊の大掛かりな仕立てや芝生の中の造形を楽しめます。バラも春におとらず咲き誇っていました。

小石川植物園では百種もの野鳥が飛んでくるそうですが、彼らを撮影し続ける写真家の展示が二月まであります。広い園内を歩いていると、ひときわ目を引くきれいなピンクの背丈の高い花が咲いていました。皇帝ダリアです。一時期常盤台でも植えていた家が何軒もあり、公園でも苗をいただいて咲かせたことがありましたが、夜の照明を嫌うので、咲かせるのが難しいということもあり、ほとんど見かけなくなっています。